

# 武蔵野市第五期長期計画・調整計画市民会議 (第5回)

## 議事録 (要旨)

日時：平成26年8月7日(木)  
場所：武蔵野市役所 811 会議室

## 1. 開会（午後7時）

## 2. 前回会議録の確認

（委員名がABCになっていない箇所3カ所と総合政策部長の発言「地上器」を修正する。  
以上について、委員によって確認された後、議事録（要旨）について確定した。）

## 3. 議事

### （1）市民会議報告書について

【企画調整課長】 市民会議の報告書案は「である調」と「ですます調」の2つを用意しましたが、皆様から、報告書にふさわしいという意見が多かった「である調」でご議論いただこうと思います。

まとめ方は、多くの人に読んでいただく前提で、視点別ではなく、体系別にしました。

【A委員】 市民会議の委員は、市民としての関心、市民として暮らしている感覚から、どういうことを伝え、計画に盛り込んでほしいのかを言わんとしています。報告書はどうしても小間切れの書き方になります。策定委員会委員には、議事録をそのまま全部読んでいただく形をお願いしたいです。議事録も、パーフェクトではないにしても、私たち委員おのおのが語ったことのまとめですので、私たちがどういうことを思って意見を述べてきたのかをおわかりいただけたらと思います。

【B委員】 議事録は、それぞれの項目について述べた意見がそのまま出ています。報告書は、キーワードで体系別にまとめるのではなくて、委員が最も言いたいことを、匿名でも結構ですので、自分の言葉で、400字ぐらいの文章を書いて、表（おもて）に載せてはどうでしょうか。あとは議事録で十分読めるのではないかと思います。

【C委員】 文章で出すと、字が結構多いイメージになるので、現状と課題が一目でわかるレジユメ的なものにして、流れは議事録で補足する形にしてはどうでしょうか。体系別にした中に、視点別の要素を入れた小項目のくくりを幾つかつけるという方法もあると思います。

また、策定委員会以外の方々にも広く見ていただけるように、わかりやすいつくりにしていただきたいです。

【企画調整課長】 策定委員会は、第1回は自己紹介と現状説明、第2回が現地視察、第3回から本格的に議論となります。市民会議については、第3回で事務局が報告書とともに全体の流れについて説明をします。策定委員は、ほかにも莫大な量の資料を読むこととなりますので、議事録も早い段階でお渡しします。

報告書とは別に、任意でお出しいただいた個人名の意見を策定委員会に提出することを考えています。

【D委員】 希望する委員が1人1枚書き、全員が400字を書くという両方をやるのですか。

【企画調整課長】 報告書のほかに、希望する委員が、語り尽くせなかった部分を第3回の策定委員会までにペーパーにします。

【E委員】 希望者が出すペーパーは、市のホームページ等で公開の予定はありますか。400字程度の内容は、報告書と一緒にオープンにしてあると、一般の方も読んでわかりやすいと思います。

【企画調整課長】 個々人のペーパーをオープンにするつもりはなかったのですが、委員会提出の資料として、名前を出した上で「市民委員からの個人意見」という形でアップすることは可能です。

【B委員】 報告書は、個人意見が連ねられています。5回を総括的に個々人が400字で書いて、冒頭に概要版として出せば、報告書がもっと読みやすくなると思います。

【D委員】 個人で出したペーパーは、策定委員会に影響力のある正式な文書としての報告書に入れ込んでもいいのではないですか。

【総合政策部長】 策定委員会への報告は、市民会議の中で議論されたことが基本原則です。ただし、審議時間が限られておりましたので、消化不良の部分は委員個人の意見として提出していただき、策定委員会にお届けするという考え方でいきたいと思います。

【E委員】 コミュニティのあり方懇談会では、各コミセンの出席者が最後に総括のような形で感想や議論し足りなかったことを書いて、公式の文書としていました。策定委員会に出す各委員の意見も、報告書に正式に載せてオープンにしたほうが、つくった側の労力も報われるし、読み手も、この人たちはこういうことを思っていたんだなということが理解できます。

【企画調整課長】 希望者だけでもそうしたほうがいいのかという理解でいいですか。

【E委員】 はい。

【F委員】 最後に文書載せるといっても、どういう位置づけになるのか想像できません。単なる感想なのか、提言という形で載せるのかがわからなければ、書きようがないです。感想は書いても、提言は、実行可能なものでないと、書くこと自体に意味がないです。

【G委員】 私も同じような考えです。策定委員会に報告書を提出するという前提を踏まえて、私は会議に出席して意見を言ってきました。個人の立場で感想等の文書を作成して、報告書とともに上げるのはどうかなと思います。私自身、この会議で言えなかったことはたくさんありますが、策定委員には、個人の文章よりも、報告書という形で簡潔に上げていったほうが、市民の考えがダイレクトに伝わると思います。

【H委員】 同じような意見です。個々の委員が自分の考えを書いて後ろにアタッチするということが自体は、私は反対ではないですが、あくまでメインは10人の意思を1つにまとめた報告書であるべきで、それに意見のある方がA4の1枚なりを添付してもらおうという位置づけならば、賛成します。

【I委員】 いつの間に公式に載せるとか載せないとかの話に変わっちゃったんでしょうか。報告書は私たちの報告書なので、私たちが報告書にこれを入れるんだと言えば済む話です。それよりも、まず何を書くのかというところです。

振り返りは感想文のイメージでしたが、話を聞いていて結局何を書くんですかと思ってしまいました。あとは、意見の言い足りないところを書くのかはつきりさせたいと思っています。それは、皆さんにお伺いしたいところですが。

【B委員】 個々人の意見を載せることがどうのという話ではなくて、この10人で5回、意見を述べ合ってきた内容、コンセプトがきちんと伝わるように構成する必要があるということです。

「キーワード」の「コミュニティ」「情報発信」等はこれで決まりですか。ここで議論するのですか。

【企画調整課長】 1「わがまち武蔵野」の3つの「キーワード」は初回にご議論いただいた内容です。それが大きく3つに集約することができましたので、読みやすいようキーワードとして第1回会議分を2ページにまとめたということです。したがって、今までの4回の発言を全てこのキーワードで盛り込んだわけではございません。

【B委員】 そうですよ。これだけではないはずだと思ったので、とても違和感がありました。この構成だと「キーワード」がまとめとして読まれていきます。市民会議で議論された、今後の市政に必要な情報ということが整理されていけばいいのですが、それが見えません。偏っている感じがしたので、個々人の感想ではなく、長計に対する評価とか新しいアイデアを400字程度で書けば、市民会議での議論のキーワードの漏れがなくなるのではないかと考えたのです。

【J委員】 「である調」版で事足りている。この後につけるとしたら感想になるだろうと思って見ていました。皆さん、言い足りないことがあるわけで、限られた時間の中で出てきたということを尊重して、これでいいと思います。

私は、応募したときに2枚物で書かせていただいて、その後、5回やった流れで納得していますが、感想ということではなく、自分の発言してきた中身をまとめることはできます。

【F委員】 報告書案の箇条書きについて、不満があるわけではないのですが、私の1回の発言が2つに分かれているのは、何か意図があるんでしょうか。それとも、作業上の都合ですか。

【企画調整課長】 現状と課題、提案に分けたところ、同じテーマで現状を出している方がもう1名いらっちゃったので、そのような形になりました。

B委員が言われているのは、足りない部分について漏れがないように別ペーパーで出したいということではよろしいのですね。

【B委員】 いいえ、別ペーパーで出すつもりはありません。

【企画調整課長】 もう一度この中に盛り込む形で載せたいということですか。

【B委員】 最初にここが一番のまとめりとして見られて、中身を繰っていくと、細かい意見がわかる構成になっているのですが、この「キーワード」では、意見交換してきたポイントが入っていません。だったら補足的に各委員からの長計に対するコメントを入れれば、バランスがとれると考えたのです。

【総合政策部長】 1「わがまち武蔵野」の位置づけがわかりにくかったので、これが全体をあらわしたキーワードだろうということで追加の文章を出すべきだということですね。第1回の議論の中身をまとめたものだということがはっきりすれば、それは構わないということですか。

【B委員】 これは第1回の議論だけが重要だという意味ですか。

【総合政策部長】 第1回だけは、キーワードを入れる体裁でつくっています。第1回の議論、第2回の議論と表題をつけていくスタイルはわかりやすいと思いますが、特に第1回だけが重要という位置づけはしていません。

【F委員】 これはモデルで、2～3ページに載っているのは第1回だけの内容ということですね。

【B委員】 1回目から5回目まで、この「キーワード」のページが出てくるという理解でよろしいですか。

【企画調整課長】 第2回は「支え合いの気持ちをつむぐ」がキーワードです。

【A委員】 2～3ページが、第1回の議論を整理してキーワードを抽出したものだということはわかりました。ただ、最初に開くページは総論のように見えます。報告書を開いた方は、まずここを読んでから各論に入る、この間、話されてきたことのキーワードは、ここにある3つだけではない、各委員が大事だと思ったキーワード、コンセプトを入れ込んで、「わがまち武蔵野」を構成し直せば、全体の話し合いが俯瞰できてよろしいのではないかという議論だと思います。私も賛成です。私はあちこちでコーディネートということを書いてきましたが、キーワードとしては出ていません。もちろん、議事録を丁寧に読んでいただければわかりますが、個々の委員が、核になるところをキーワードとして抽出して、最初のところに整理して載せる形がベターではないかと思います。

【G委員】 そもそもこの市民会議委員の募集の題材となった「『わがまち武蔵野』～武蔵野市の魅力、憧れのまちにするには～」という題材で皆さん作文を書いて会議に挑んだと思います。この報告書の冒頭に、作文のタイトルを出して、次のページから2回目以降の会議のまとめりが入っています。私は、そんなに難しく考えなくても、そのままこのとおり読んでいけば十分理解できると思います。

【企画調整課長】 作文のテーマについて第1回にご発言いただいたので、それに沿って出していたいた課題を2～3ページ目にまとめています。くくりがあったほうが読みやすいだろうということで、発言をキーワードに沿ってまとめさせていただいた形になっています。

これを4回目までのエッセンスを全部取り込んで拾っていくというのは、なかなか拾いづらい部分があるかなと思っております。

【F委員】 1というのは何か、2は2回目の前半の内容で、3は2回目の後半の内容であるという説明を頭に入れれば、誤解はなくなるのではないですか。

【J委員】 キーワードを網かけしているから特別に目立ってしまう。普通にしておけばよかった。

【B委員】 今のご説明はよくわかりました。ただ、「コミュニティ」「情報発信」「魅力的なまちで在り続けるために」というキーワードと内容がそぐっていないです。役所の方の感性で拾っていますので、こちら側のキーワードを出していただく必要はあると思います。

【企画調整課長】 報告書は「である調」で作成するというので、よろしいでしょうか。

【I委員】 僕は「である調」であってもなくてもどっちでもいいんです。ただ、「～だと思います」が「～だ」と言い切っているところがある。「思います」と書いてあるところは「思う」で切っておかないと、ニュアンスが変わってきます。そこは丁寧にやっていただきたいです。

【H委員】 第五期長期計画の冊子は「である調」で、丁寧調にはなっていないので、そろえたほうがいいのではないですか。報告書だけ丁寧調にするのは、不自然です。

【D委員】 1ページの「はじめに」の一番最後、『市民の想い』として受けとめは、市民を代表しているわけでもないのに、いいのかなと思っています。

「誇りを持って継承できる持続可能な都市をめざして」の「持続可能な」は、年金なり医療なり社会福祉が削られてきた経緯がありながら、私たちの市民のほうからお願いしますという形になるのがちょっと嫌です。私たちはもともと魅力的なまちであり続けるためにということで議論してきたので、「魅力的なまちであり続けるために長期計画を策定していくことを委員一同心より願う」としていただけたらと思います。

【企画調整課長】 「誇りを持って継承できる持続可能な都市をめざして」というのは、第五期長期計画のタイトル的なものなので記載しましたが、違和感があるということでしたら、「魅力的なまち」、作文のタイトルに近い形に変更したいと思います。

『市民の想い』として」というのはいかがでしょうか。

【G委員】 私たちは10人という少ない人数ながらも武蔵野市民の立場で意見を言っていますので、私は「市民の想い」が入っていてもいいと思います。

【I委員】 回数が少ない、深い議論ができなかったということも考慮に入れるなら「市民の想いの1つとして」ですが、全部取ってしまって「市民会議の報告書として」とスパッとってしまうのがいいのかなと思います。

【D委員】 「想いの1つとして」と言うのが軽くなり過ぎるので、「市民会議の報告として」に。

【B委員】 第1回の議事録の内容を整理したということだったのですね。1回目は、各委員が、なぜ市民委員に応募したのかを語っていったと思います。各委員の発言の中にこだわりがあることを、私はこの会に参加して感じました。そこはキーワードとして置いていくことが重要だと思います。

ちなみに、多文化共生は「情報発信」ではありませんので、よろしくお願いします。

【E委員】 その下の部分は「情報発信」でありますので、そこら辺はキーワードの作り方の難しさだと思います。全体を網羅したベストな言葉をキーワードとして選んでいただければと思います。

【J委員】 これは敏腕編集者でも難しい作業です。「コミュニティ」では広過ぎるし、「情報発信」という割には一言二言だったりしています。仕切りの入れ方、まとめ方を考えたほうがいいです。

【D委員】 1「わがまち武蔵野」は、長計について言っていないで、自分の感想とかなので、異色に感じます。ほかとは別だというのが欲しい。ここは委員のみんなの考える魅力的なまちというテーマで別にして、次の「確かな未来を築くまち武蔵野」からを1番としてはどうかと思います。

【C委員】 我々が「わがまち武蔵野」についてどういう作文を書いて、どんな話し合いがされたのか、その流れがわかるようにして、キーワードは後で、適切なものを入れることにしてもいいかもしれません。

【H委員】 2ページ、3ページが誤解を生じやすいのは体裁の問題もあると思います。枠が同じだからそのように錯誤しやすいので、いっそのこと、4ページ以降はこのままにして、この枠を取っ払うとか別の体裁にするとか、そうすれば多少は誤解が生じにくいのかなという気がします。

【F委員】 「キーワード1」「キーワード2」「キーワード3」という分け方そのものに問題があると思うんです。「コミュニティ」という内容で話し合ったわけでもないし、「情報発信」「魅力的なまちで在り続けるために」ということでもないのに、いかにも、このキーワードについて語っているように見えてしまう。これは単なる中見出しですが、中身とは関係ない。もうちょっと無機質な感じの中見出しに変えればいいのではないのでしょうか。

【B委員】 これはいつまでにまとめる必要があるのですか。

【企画調整課長】 8月20日の第1回の調整計画策定委員会に出して読んでいただくのは難しいので、9月か10月の第3回に間に合うように、8月末～9月中旬までにまとまればいいのかと。会議はこれが最終回ですので、あとはメールのやりとりなど非公式の形でやらせていただく予定です。

2ページ、3ページの部分は、委員ごとにまとめて、1ページに5人ぐらい入れた両開きの体裁に大幅に修正し、報告書の最初に載せるのか、最後にするかも含めて検討してみます。

【H委員】 内容的に重複にならないですか。

【企画調整課長】 意見の重複はどうしても入ります。

【B委員】 そこで委員のキーワードが出てきたら、それを見出しにさせていただけるといいですね。

【企画調整課長】 そうなると、1ページに3人分ぐらいのまとめ方になって、3ページ分になります。

【総合政策部長】 個人ごとの発言のまとめという形式でよろしいでしょうか。

【C委員】 いいと思います。こちらで議事録を見返した上で、入れてほしいことを発言し、自分のキーワードだと思うところを太字にしてもらえれば事足りる気もします。

【企画調整課長】 全く発言のない項目を追加するのはいかがかと思いますが、一旦、事務局で議事録をベースにつくります。微修正あるいは必要事項にアンダーラインや太字の強調程度で対応します。

4ページ以降ですが、6ページ、7ページの追加部分は網かけにしています。

【B委員】 4ページ以降はこの形でということはさっき了承されたと思いますので、この内容を委員が議事録と突き合わせて拝見させていただき、期限までに連絡するのが合理的かなと思います。

【A委員】 私がメールでお送りした分は入っているのでしょうか。

【企画調整課長】 A委員からお送りいただいた部分は、非常に量が多くありましたので、委員として個人でペーパーをとということになれば、そういう取り扱いもあるのかなと思っています。

【A委員】 きょうは盛りだくさんな内容で、時間的に制約があったので、第2回で話せなかった部分をメールでお伝えしました。本来は市民会議で発言したかった中身だと受けとめていただければと思います。

【企画調整課長】 実は、第1回にご発言いただいた「コミュニティ」でくくってある部分は、パブリックコメントを募集していた担当課に、市民会議の第1回で出された意見として届けており、そのような取り扱いもしています。

【C委員】 4ページ以降の見出しの網かけ部分は、長期計画の基本施策に対応しています。私たちも、キーワードとなるものを紙でいただいて、それをもとに発言しました。委員ごとに意味があってキーワードを選んでいるはずですので、どこからピックアップしたかがわかる資料を付録にすれば、読む方もわかりやすいのではないかと思います。

【企画調整課長】 なぜこのくくりをしているかという、この後、策定委員会で見るときに、今の第五期長期計画を追って検討を進めますので、この流れでまとまっていると、策定委員が見やすいだろうということで、こういうまとめ方をしています。全くリンクしているわけではなく、意見が少ないところについては2つをまとめていたりもします。そのあたりの見せ方は難しいんですが、どうまとめたか



ということについては、どこかに注釈を入れておきたいと思います。

## (2) 市民参加のあり方～市民会議を振り返って～

【企画調整課長】 H委員から、この方式は武蔵野だからできるのか、だから職員数が多いのかというご質問をいただいています。今、ワークショップなどによる市民参加は他市でも多く採用されています。武蔵野市は、第一期長期計画からこのようなオリジナルの形をとって武蔵野方式と呼ばれ、業界誌などでも取り上げられています。第四期長期計画・調整計画は、各分野 20 名弱の委員の市民参加方式でした。第五期長期計画は、四長策定の際のメリット・デメリットを勘案して、10 名の市民会議から策定委員を出す方式にしました。

【I 委員】 私自身も行政計画と呼んでいますが、本当は市民の計画にならないのかなと思っています。つくりっ放しで、その後、市民が一切関与していないというのではなく、市民が自分たちのまちをつくり上げるために行動をしていくという性質を持たせられないか。

私たち一人ひとり生活していく上で課題をいっぱい感じます。その課題をどう解決していくのかを提言していく場であってほしいです。だからこそその市民計画であることを踏まえて、策定委員会の方々は、行政の下ということに流されずに突破していただきたい。また、何度も言っているように、今までつくった計画で、できたところとできていないところ、できなかったところはなぜなんだというところをちゃんと検証していただきたい。

今 50 個ぐらいある計画との整合性というかタイミングも調整してもらいたいです。個別計画の策定がかぶっていることがあります。次の計画に反映されるのかとすごく無駄なことに時間をとられている気がする。そのタイミングですね、そこをどこかでうまく調整できるようにしないとイケないかなと思っています。

【企画調整課長】 武蔵野市の策定委員会は、行政とは独立して計画を立てているので、行政の下ということは全くないと思います。

【I 委員】 策定委員会の方たちは、すでにある計画に引っ張られているのだと思いますし、このやり方がオリジナルだというなら、ではなぜそのやり方なのかというそもそもの目的やコンセプトが今、私たちに伝わっているのかどうなのかなというところがすごく気になっています。

【E 委員】 長期計画のPDCAサイクルを話し合える資料配付や進め方をしてほしかったです。我々も資料を読み込んで会議に臨んだのですが、長期計画のどの部分を受けて、現状をどう変えようとしているのかが伝わってくる資料が少なかったです。そこら辺がもう少しあれば、もっと充実した議論になったと思います。

【企画調整課長】 個別計画のPDCAは計画上にうたっているのですが、長期計画は大きなテーマでやっているの、4年間でPDCAを回しています。策定委員会にはPDCAの進捗状況を見せるのですが、その前段の、公募市民会議にはタイミングが合わない。この現状は課題だと認識しています。

【A委員】 第四期の調整計画のときに、100人規模の市民を公募して、150人以上が応募し、100人弱が委員になりました。相当なエネルギーと労力がかかりましたが、少なくとも約100人の市民が参加したこと自体は大きなことでした。そのことがどう評価されて、五期の計画では、この10人で5回の市民会議へと、どう組み立てされたのかが私たちにはわかりません。つまり、行政は評価なさっても、市民には伝えられていない。これでは一緒につくっているという感じがしません。我々のわからないことは、エキスパートである行政の方と一緒に、話し合いながら、計画をつくるなり、協働するなりが必要だと思っています。我々のわからないところで物事を決められているというプロセスがあると、市民参加は市民の納得いく形では進みにくくなります。

【B委員】 武蔵野方式の市民参加に初めて参加させていただいて一番驚いたのは、手を挙げた市民の方々の見識の高さです。とてもすばらしいと思いました。ほかの自治体でも市民参加はありますが、ワンテーマ、ワンイシューみtainな形だけで突き進んで対立していく構図もあることを考えると、武蔵野市民の成熟度は高いのかなというのが最初の感想です。ただ、俯瞰した形で議論できる市民が集まっていたにもかかわらず、意見を述べるだけの印象が強く、議論の場と言えるものにはなっていませんでした。それぞれがお持ちの論点に対して、違う観点、違う分野の方はどう思うのかという意見を交わし合うことで、深まりのある施策提案ができると思います。

また、市民参加を手挙げ方式にすれば、確かに意識の高い人が集まります。策定委員会は有識者が多く名を連ねていますが、成熟した市民がたくさんいる武蔵野ですから、学術的な形式知だけではなくて、現場サイドの実践的などところを出せる委員の構成にしてもいいのではないのでしょうか。現場サイドで積み上げられた知見も1つの専門性ですので、そこをもう少し大切にしたいほうがいいのではないかと思います。

いわゆるサイレントマジョリティが、市政にどう関心を持ち、生活者レベルで日々何を感じ、行政に対してどんな潜在化した思いなり意見を持っているか、丁寧に拾い上げていくプロセスがもう少しあるといういろいろな人たちが関心を持って参加してくるのではないかと。

【H委員】 私は、「一人ひとりの委員が市役所に向かって発言しているだけだ」という意見が強く印象に残っています。「非公式の場で議論なく委員が各自の意見を言っているだけならばインターネットで集約したほうがいい」という意見もありました。これは、委員を公募あるいは無作為抽出にしている限り、やむを得ないことだと思いますので、我々に責任はないと思います。

また、私は、少数の市民が深くかかわるよりも、多くの市民が広くかかわることのほうが重要だと思っています。10人で意見を出し合っても、どうしても漏れがあります。インターネットで多くの市民の意見を集めて、別の形の市民会議にかけるほうが、より広い形の市民参加になると思います。

【D委員】 大変な人ほど参加できないなと思いました。私は、これまで夫の協力もあったし、近所の人も仲よくなって、子どもを預かってもらったりして、きょうはこうして子どもを連れて来ちゃったんですが、もっと大変で、参加どころではない人もいます。ウェブ会議の開催など、ハードで解決できることは積極的に取り入れていけば、より多くの市民が参加できます。また、事前に意見を出し合うスタイルにすることで、限られた時間に有効な議論ができると思います。

【F委員】 とりあえず時間が短過ぎたというのは感じていますね。皆さんが自分の思いや意見を出しているだけで、会議と言えるものではなかった。そういう内容なので、報告書案も内容のつながらないものの羅列に終わっているのはしょうがないです。

私は、何の市民活動にも関係していない、本当の無関心層ですが、市の情報にアクセスしている人と、していない人の差が激しいと感じました。20年以上住んでいて市役所に来たのは今回が初めてです。

市民はもっと知らなきゃいけないし、知ってほしいと市のほうから言うことも大切です。とりあえず手伝ってよととか、無関心層もどんどん取り込む形でやっていかないと、投票率の低い今の若い子みたいな人ばかりになって、私のような人は何もなくなってしまいます。

【C委員】 第4回が終わってからのメールのやりとりは、すごく有意義でした。事前に話し合いがなされて、市民会議の場でもむという形が、4回目を終わってでき始めました。これ以降も、有志が集まって何かできればいいなと思います。

会議に参加したくても参加できない方のための環境の整備も必要です。一方で、無関心な方々には、行政の側からどんなにアピールしても、届かないときは届かないし、むしろ反発されることもあります。会議への参加の動機はそれぞれ違って、すごくおもしろい経験をしてよかったから、もっと知りたくなって来てみたという方々もいれば、その逆で、嫌なことがあって、これはどうしても言いたいということに来てている方々もいます。行政側からのアピールは既になさっていると思うので、これからはもっと垣根を低くしてもいいのかな。ふらっと、いつの間にか引き込まれるような環境をやんわりと整備するというか、そこから一人ひとりの問題意識のようなものが生まれてくるようなものができていくといいかなと思います。

【G委員】 市民会議の人選についてです。市民が興味を寄せ、必要とする施策は、世代とか性別、家族構成によってさまざまです。今回は作文をもとに何のバックグラウンドも考慮に入れない人選でした。それも1つですが、反対に、世代や性別、家族構成などを考慮に入れた人選にすることで、より広く公平な市民層の意見が出ると思います。

子育てや介護以外の分野は、どうしても優先順位が低くて、言い出しにくい面もあります。今、若年層世代は、正社員の職につけない等々の問題を抱え、将来に不安を抱えています。そんな世代にもきちんと目を向ける時代なのかなと思いました。

今回の会議の参加はとても有意義でした。武蔵野市に長く住んでいますが、物心ついたころには武蔵野市は行政の先端をいっており、豊かな財政を当たり前のように思っていました。今、市に対しての厳しい目が向けられていますが、私は、今までの武蔵野市のかじ取りが正しい方向に進んできたからこそ、住みやすい、みんなから愛される人気のまち吉祥寺になったのだらうと思っています。

今のネット社会で一番難しい問題は、やはりコミュニケーションの形成です。今のコミュニティのあり方をさらに拡大するのは困難だと思っています。ただそんな中で、私は市民会議に参加することで、自分に何ができるのかを考えるようになりました。近隣に新しく転入してきた方々と気軽に挨拶をすることを手始めに、同じ地区に住む人と連帯感のある小さなコミュニティを模索していこうと思っています。

【J委員】 武蔵野市民は、市民会議に限らず市政参加の機会が多いと思います。タウンミーティング

をしよっちゅうやっていますし、市長と直接話す機会も多い。パブリックコメントも受け付けています。私はたまたまコミュニティを考えるワークショップの抽選に当たったので、出てみたのですが、びっくりするほど大勢の人が集まって、皆さん活発に語っていました。ところが、今回のこの 10 名の市民会議は応募者が 16 名だったとのことで、これはハードルが高くて敬遠されたのでしょうか。それとも、もともと市民会議の応募はこういうものなのですか。

ワークショップは、たくさんの方が参加できる機会なので、なかなかおもしろいなと思いました。ですから、市民会議という会議体にこだわらずにおやりいただきたい。

この市民会議に期待するもの、ワークショップで導き出したいものが見えず、役割もわからずに第 1 回に出席して、「皆さんでご自由に意見を言ってください」というところから、ちょっとした発見とか気づきがあればいい、そんな岡目八目的な役割ができればいいのかなと思っています。

**【企画調整課長】** 公募 16 人の件ですが、夜間の時間帯に 5 回開催ということがハードルが高かったとは思っていません。会議のテーマの問題かと思います。

100 人委員会の評価につきましては、メリットとしては、多くの方に参加いただいて、市政への関心が高まったということです。それを受けて第五期長期計画から、その方式ではなくて始めたのが無作為抽出のワークショップになります。

この調整計画から変更した点ですが、市民会議の前にワークショップを開催したことです。そこからこの市民会議に手を挙げていただいた方がいたということは成果だと思っております。

あと、現場の声をという話につきましては、個別計画を重視ということで、個別計画のほうには現場の者が必ず入っていますし、当事者市民も入っていただいておりますので、その個別計画を重視して長期計画をつくるということかと思っております。

ウェブ会議等については、この間のメールのやりとりを見てもこういう形でいけるのかなというのは新たな視点として持っております。

この会議がこのまま終わってしまってもったいないという意見は、私もそう思います。

**【I 委員】** 個別計画についてですが、策定委員会みたいな感じで市民がいて、もしくは充て職の方が意見を言い、行政の方はあくまでも事務局という形で報告書なり提言書なりをつくるやり方と、子どもプランのように、つくるのは行政の側で、協議会側は意見を言うだけという幾つかのパターンがあると思います。ただ、つくった後に、計画はどのくらい進んだか、委員会もしくは協議会に参加された方の意見は実現されているのかどうかという振り返りと批評をする。それをするだけでも変わってくるのではと思っています。

**【企画調整課長】** 調整計画も、つくった人たちが振り返りをやったほうがいいのかということですか。

**【I 委員】** できればそうしてもらいたいです。でも、個別計画を重視するのであれば、まず個別計画からやってもいいのかなと思いました。

**【B 委員】** 市民参加は、参加した人たちの参加感が重要です。例えば、パブコメを出しても、それが反映されている感じがありません。市民一人ひとりの意見がどれだけ市政に反映しているかが、市民参加の推進につながります。市民参加で述べられた意見が反映されたというフィードバックがあれば、参

加する意味も感じることができます。言ったことが全部反映されるとは思っていませんが、その一かけらでも反映されたのかされなかったのか、なぜされなかったのかがわかることが、次につながっていくと思います。

【J委員】 タウンミーティングでの重要な意見や関心の高いものは、ツイッターなどで情報が拡散します。ところが、そうした塊の動きが全く起こっていません。形はそろっていても、実際に物が動いていなくて、砂に水をまいているみたいな感じです。装置はそろっているのですが、それが本当にうまくいっているのかといったところは行政のほうでよく見ていただきたいと思います。

前回、市政センターの話が出ていましたが、人と費用をかけているので利用者が一番少ないとわかった瞬間、すぐ動くべきです。市役所の紙購入量の件も、ISO14001をお取りになっているのに、何もコントロールされていない。あの認証の費用は百数十万かかっているはずですが、やったものについて点検して振り返ることの必要性を感じます。

【G委員】 私はワークショップに参加して市民会議に応募しました。ワークショップ参加者は八十何名いたと思います。ワークショップ終了後、「市民会議というものがありますので、興味のある方は」という紹介はあったものの、詳しい内容についての説明は全くありませんでした。また、市民会議の作文の締め切りが、ワークショップの終わった3～4日後で、たかが400字詰めの作文ですが、私には大変でした。期間をもうちょっと長くすれば、応募する方もふえると思います。

【F委員】 この市民会議ですが、 이슈が5本あるので、 이슈ごとに5人の25人が5回やれば、話し合いも濃密になります。10人は必要ないと思います。今回の、よく言えばバラエティーに富んでいるけれども、悪く言えば関連のない意見が並んでいるだけという結果はやむを得ないと思います。

【企画調整課長】 個別のテーマで深くというのは、個別計画になります。この市民会議は、専門はもちろんですが、自分の専門分野でない、ふだんは興味のない分野の話も出て、それを当事者でない感覚、市民感覚でどう思うかということも大事だと思っています。

【A委員】 市民参加の基本は、一人ひとりの市民の声をどれぐらい丁寧に聞けるかです。みんな思いはあっても、うまく言えなかったり、言葉が足りなかったりするし、誤解が生じたりします。そういう市民の声を、やはり丁寧に聞き取って、「それはできません」ではなくて、どうすれば生かせるか、計画の中にどう反映させていけるのかを考えていくほうが、建設的な話になっていくと思います。

市民会議については、ほかの人の意見を聞いた上で一旦持ち帰って、あの人の意見はどうだろう、自分は思うだろうということがあって、もう一回あるということが議論につながっていくのではないかと思います。

また、市民参加のベースを支えるのは、ふだんの市のいろいろな活動です。まちで行政の人と市民が話をする機会がふえることが、より多くの市民参加につながると思います。

【E委員】 自分では考えもつかなかった意見に触れることができたのが、この市民会議のよかったところですが、ただ、言葉にできなかったことや、会議では出ていても抽象化の際にこぼれ落ちてしまったことなどもあると思います。個別具体的な話に入れば入るほど、一般的な話ではなくなって、使い勝手

が悪くなるのでバランスが難しいですが、次の会議に生かせるような資料の作成をよろしくお願ひしたいと思ひます。

【I委員】 市議会については、行・財政で発言したのではなく、コミュニティ構想の流れの中で、議会がこうなつていったほうがよかつたという部分なので、そこはちょっと考えたいと思ひます。

【企画調整課長】 それでは、今後の予定をお知らせします。2～3ページについては、10日ほどお時間をいただき、18日の月曜日を目途にお送りしたいと思ひます。その後、1週間ぐらいで確認していただきお戻しいただければと思ひます。健康・福祉から行・財政までの訂正については、1週間ぐらいの間に委員の方からご回答いただければと思ひます。今回の議事録につきましても、10日ぐらいお時間をいただき、その後、今回の振り返りの部分につきましても作成しまして、お送りしたいと思ひます。一連のスケジュールについては、あらためてメールでお送りさせていただきます。

報告書の作成目標は8月末としたいと考えていますが、状況によつてもう少し延びるかもしれません。報告書ができ上がりましたら、最終的に市長へ答申します。全員参加が難しければ一番人数の多い日程となりますが、皆さんの日程と市長の日程の合うところで設定し、懇談する時間もとりたいと思ひます。

【C委員】 メールのはやりとりは公開しないと思ひますので、議事録に「メールで話された」とあつても、策定委員の方はわからないと思ひますが。

【企画調整課長】 策定委員会では、事務局説明をするときに、この間のやりとりも説明した上で報告書の内容を説明したいと思ひます。

#### 4. その他

【総合政策部長】 5回にわたる会議、大変お疲れさまでした。ありがとうございます。

なるべく自由なご発言をいただくということで、この議論に臨んでまいりました。そういう趣旨であつたということをご理解いただきたいと思ひております。

時間が足りなかつた、これは確かによくわかりますが、これを長くすると、参加者がまた限られて、その期間ずっと出られる人しか申し込めない。ここが常に市民参加の一番難しいところでして、この会議自体にも参加できない方がいらつしやる中で、さらに長期間にするというのもこれまた難しい。ただ、市民参加というのは、常に決定的なものがあるとは思ひておりません。武蔵野市らしい市民参加がありますし、市民参加というのは、常に検討を加えながら考えていくものです。できるだけ多くの方の意見をいただけるようなものをつくっていく、そういう市民参加であり続けたいと思ひております。

印象に残るご意見はたくさんあつたのですが、市の職員に対する厳しいご意見、市の情報提供に対するご意見、これは重く受けとめなきゃいけないと思ひております。

また、第4回が終つてから、メールのはやりとりがありました。限られた時間の中で会議を効率的に進めて、議論を集中させるためには非常にいい方法だということも全庁的にも広く紹介していきたいと思ひております。

皆さんが市政に対してご意見を言う市民参加の機会はこれだけではありませんので、日ごろから市政にぜひ注文を、注文だけでなく提言、そして一緒にやっていくという内容をご提案いただければ大変あ

りがたく思っております。

5回にわたる会議にご参加いただきまして、まことにありがとうございました。

**【企画調整課長】** それでは、これもちまして第五期長期計画・調整計画の市民会議を終了します。

閉会（午後8時59分）